

私立大学研究ブランディング事業 平成28年度の進捗状況

学校法人番号	131021	学校法人名	駒澤大学		
大学名	駒澤大学				
事業名	『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	13584人
参画組織	7学部（仏教・文・経済・法・経営・医療健康科・グローバル・メディア・ステージズ）、1研究科（法曹養成）				
事業概要	現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、①現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、②多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、③坐禅の身心への影響を科学的に検証し、④全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。				
①事業目的	<p>1. 禅（ZEN）の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う。</p> <p>2. 禅（ZEN）の研究を、超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する。</p> <p>3. 禅（ZEN）思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する。</p> <p>4. 上記の1. 2. 3. を総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する全学的な組織（禅研究センター）を設置する。</p>				
②平成28年度の実施目標及び実施計画	<p>（実施目標） 平成28年度は研究組織の体制整備や禅（ZEN）セミナーに必要な備品の購入、本事業の広報ホームページの作成等の事業の実施体制の基盤を作る。 ・先行研究の整理や実地調査を中心に行い、平成29年度以降の研究の基盤を作ること。 ・備品の購入、広報ホームページや禅（ZEN）に関するWebコンテンツの作成等を行うこと。 ・平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。</p> <p>（実施計画） ◎禅（ZEN）の源流および文化の研究 文学や芸能、美術など江戸時代の文化や社会民衆の中にあつた禅（ZEN）に焦点をあて、近代以前における禅（ZEN）文化の影響について明らかにするため、本学図書館所蔵の禅籍資料や近世の文学作品等を主な対象とする研究を行う。また、新纂禅籍目録の更新に向けた作業を開始する。必要に応じて、国内外への実地調査を行う。 ◎禅（ZEN）による人の体と心の研究 禅（ZEN）を科学的に検証するため、先行研究の整理と実地調査を行う。国内寺院や修行道場における禅瞑想法、海外におけるマインドフルネス（メソッド化した自己啓発、心理療法として用いる瞑想）等を対象とする。 ◎禅（ZEN）と社会制度の研究 中世の日本において、禅（ZEN）が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにするため、「林下」や「公案」の制度背景、戦国大名や地方武士に受容された社会背景等を主な対象とする研究を行う。 ◎禅（ZEN）の社会貢献・世界発信事業 禅（ZEN）セミナーに必要な備品の購入や本事業の広報ホームページの作成等、平成29年度以降の実施体制の基盤を作ること。</p>				
③平成28年度の事業成果	<p>【平成28年度の事業結果や実績】 平成28年11月22日に文部科学省より補助事業の選定通知を受け、本格的に開始した。 平成28年度は、選定期間との兼ね合いもあり、主に研究組織の体制整備、研究基盤作成準備、学内関係部署等との調整や各種手続を中心として実施した。</p> <p>【本事業の成果を基にした社会へのサービス活動】 大学ホームページに禅ブランディング事業に関するウェブページを作成し、社会へ情報発信している。 また、一般参加が可能なイベントとして、体と心チームでは3月4日に坐禅会を、社会制度チームでは3月18日にZEN BRANDING KICK OFF EVENT NO.2を、それぞれ開催した。</p> <p>【学外組織との連携による本事業の推進】 本事業の連携機関として、曹洞宗の両本山（永平寺、總持寺）や臨済宗の研究を扱っている花園大学国際禅学研究所、公益財団法人禅文化研究所より、承諾をいただくことができた。</p>				

	<p>(自己点検・評価) 【点検・評価(効果が上がっている事項)】 ○各研究チームでは、今後の活動を進めていくにあたり、研究組織の体制整備や研究の基盤となるデータ等の準備を実施した。 ・源流チームは、花園大学国際禅研究所や公益財団法人禅文化研究所との連携を実施した。『新纂禪籍目録』のデータ化を行うなど、基礎データの作成に着手した。 ・体と心チームでは、3月4日に坐禅会を開催し、慈悲の瞑想の臨床試験を実施した。 ・社会制度チームでは、禅の基本知識を得るための勉強会を2回開催し、禅研究の基礎的な研究内容の理解やグローバルな視点から禅研究を広めていくための手法や考え方を学んだ。 ・世界発信チームは、本事業のブランディング戦略(5年間)を立案する業者を公募し、株式会社電通と協力する方針が決まった。また、ブランディング効果の測定として、株式会社インテージにステークホルダー調査等を依頼した。 ○事務部門は、本事業を学長のリーダーシップのもと円滑に実施するため、研究活動推進委員会や禅ブランディングプロジェクトチーム合同会議を実施した。また予算管理においては、学内の調達部会の承認を得るなど、既存の学内ルールに準じて執行した。</p> <p>【点検・評価(改善すべき事項)】 ・各研究チームにおいては、選定期間との兼ね合いもあり、研究の開始が遅れている。 ・研究組織や学内関係部署との連携など、急遽構築した組織体制であるため、今後5年間の事業を進めていく上では、順次見直す必要がある。 ・大学ホームページにて発信している内容は、文部科学省に提出した資料と同一であるため、事業の進捗などの最新情報を載せる必要がある。 ・本事業の連携機関となっていた研究機関等と、連携内容等について今後の方針が決まっていない。</p>
<p>④平成28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(外部評価) ◎元金沢文庫長・高橋秀栄氏 【事業全体に対する評価】 ○当該事業の適切性・妥当性について 昨年十一月二十一日に採択された国支援の本事業は、本校の七学部、一研究科が共同連携チームで取り組む画期的な一大事業である。複数の学部へ渡る実務担当者が目標の遂行に英知を出し合い取り組まれている。坐禅を淵源とする禅の教えは禅の指導者や研究者の活躍により国内外に広く知れわたっているが、さらに混迷に満ちた現代に適応した啓蒙活動も求められている。この事業は、数年後に開催されるオリンピック・パラリンピックを契機に我が国を訪れる人々にも禅の最先端の研究成果を情報発信するというきわめて有意義な事業である。この事業に携わる関係者の真摯な努力の姿勢と成果を見守りたい。 ○当該事業による目的の実現可能性について 本事業のスタートからまだ半年余りのため、取り組みに多少の遅滞があるかに推察されるが、事業計画は期待度が高く、また注目される事業だけに、遅れが生じないように鋭意努力されたい。学際的チームの事業だけに、精度の高い調整も不可欠であるが、協調性を密にすることにより、大きな知的所産を蓄積することができよう。当面は駒澤大学の禅ブランドが世間に周知され、永続的な事業に繋がっていくことを視野に、実施体制の基盤を堅固にされることを期待したい。</p> <p>◎デジタルハリウッド大学准教授・高橋光輝氏 【事業全体に対する評価】 ○当該事業の適切性・妥当性について 約3ヶ月の短期間の中で各事業部門は計画通りの業務が遂行されている。これまでの禅に対するブランディングが大学としてどのように行われていたかという過去の振り返りも今後の計画に対して成功する要因になる。 ○当該事業による目的の実現可能性について 全学が一体となって本事業に協力し、実行していくかが本事業の要である。今後の年度ごとの実現に至っては、学長及び副学長を初めとしたリーダーシップが必要であり、取りまとめや業務分担など事務局の存在も非常に大きくなる。今後は成果を確認するフェーズに入る事もあり、大学全体での取り組みである事の学内認知を、教職員や学生を初めとして広げる必要がある。</p>
<p>⑤平成28年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成28年度の事業経費として、5,233,810円を使用した。 経費使用の主な目的は、研究組織の体制整備や禅(ZEN)セミナーに必要な備品の購入、本事業の広報ホームページの作成等である。 主な使用状況は、研究組織の体制整備に係る物品の購入(PC、脳波測定器等)や広報活動にかかる費用(禅(ZEN)セミナー使用する応量器の購入や広報ホームページの作成、禅文化歴史博物館常設展示図録「禅の世界」の翻訳に係る謝金等)である。</p>